

豊能町くはたちのつどい

20歳の晴れの門出を祝し、1月12日、ユーベルホールにおいて令和8年「はたちのつどい」を開催しました。

当日は、スーツや色鮮やかな振袖に身を包んだ新しくはたちになられた102人の出席があり、未来への新たな一歩を踏み出しました。

また、会場では久しぶりに会う旧友とともに写真を撮ったり、思い出話に花を咲かせたりする姿がこちらで見られました。



「二十歳のつどい」

池田 勇希さん



本日は、二十歳を迎えた私たちの門出に際し、このような盛大なる式典を催していただきありがとうございます。これまで私は、家族、友達、先生、地域の人々などさまざまな人に支えられてきました。そのおかげで無事にこの日を迎えることができました。皆さまには感謝申し上げます。

自分たちの世代はちょうど中学3年生の頃に新型コロナウイルスの蔓延により、学校にいけない日が続きました。学校再開後もマスク着用の義務や給食中の私語厳禁などさまざまな制限がありました。そんな制限がありながらも他の中学校は中止になったりしていた体育祭や修学旅行を自分たちは行うことができ、中学校生活の最後に楽しい思い出を作ることができました。そんな中学校生活からもう5年ほどたち、自分たちは二十歳を迎えました。成人になりさまざまなことができるようになりました。そしてそれは、私たち自身が責任を持たなければならないうことが増えたということです。しかし、私た

ちは成人になったといってもまだまだ未熟な存在です。そのため二十歳は人生の中間地点であることを自覚し、日々成長していかなければならないと感じています。

話は変わり私事になりますが、現在私は数学の教員になるため勉強しています。また部活は奇術研究部というマジックを行っており、毎年自主公演を行っています。人を楽しませることが好きで、人のために何かできることはないかと考え日々過ごしております。そんな私が大切にしていることがあります。それは「人との繋がりに」です。先程も述べたように私は今までさまざまな人に支えられてきました。それも人との繋がりにです。私は豊能町で育ち、小学校や中学校に通っているうちに人との繋がりを学びました。そして今でも大学生活では同じ学科の友達や同級生といった横の繋がりでなく、先輩、後輩といった縦の繋がりが大切にして日々過ごしております。

最後になりますが、これからも私たちの成長を見守っていただけると幸いです。また、本日はご来席いただきました皆さまに感謝申し上げます。簡単ではありますが、私の二十歳のことばとさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

「二十歳のことば」

なかにし
はづき
中西 葉月さん



本日は二十歳を迎えた私たちの門出に際し、このような盛大な式典を催していただき、ありがとうございます。町長をはじめ、ご来賓の方々、さらに多数ご来席いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。

私は豊かな自然に溢れた豊能町で生まれ、温かい地域の方々に見守られながら育ちました。はたちの日を迎えるにあたって、そんな豊能町で過ごした日々を思い出します。通学中に「おはよう」と挨拶をしてくださった地域の方々。たわいもない会話で毎日を楽しませてくれた友達。いつでも親身に優しく寄り添ってくれた先生方。そして今日に至るまで私を見守り続け、育ててくれた家族。こんなに素敵な町で私はのびのびと成長できたのだと、改めて実感しています。

特に多くの時間を過ごした学校では、素晴らしい先生方と関わる中で、憧れを抱き、将来は教育現場に携わりたいと考えるようになりました。そして現在、大学では子どもたちのより良い

教育現場を作るため、教育の本質や理論について学んでおり、教育現場が抱える課題を中心に、学校、家庭、社会といった幅広い視点から捉え、解決に向けた考察を深めています。これらの学びが将来につながればと思っています。

このような豊能町で得た温かい思い出から、今に繋がり、そして希望に満ちた未来へと進んでいくために私が大切だと思っていることは、「今を精一杯楽しむ」ことです。単純な言葉に聞こえますが、過ぎ去る日々を後悔のないものにするために、今を無駄にせず全力で楽しむことで明るい未来に繋がると信じています。

しかし、自分一人の力では叶いません。常に自分を支えてくれる周りの方々に感謝の気持ちを忘れないようにしたいです。

簡単ではございますが、この日は私たちを迎えた全ての人にとって素晴らしい門出になることを心から願い、はたち代表のことばとさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

